令和４年度札幌国際芸術祭実行委員会事業計画書

（令和４年４月１日から令和５年３月31日まで）

令和４年度は、令和５年度冬季に開催予定の次回札幌国際芸術祭(SIAF)に向けた準備を進めるとともに、次回SIAFが重要視している「市民がさまざまな形で参加できる仕組みづくり」や「既存事業や企業等との連携による付加価値の創出」につながるよう、効果的に広報プロモーションや普及事業等を展開していく。

１　次回SIAFの開催準備

⑴ テーマ、コンセプト、会期等の決定

小川ディレクターがこの芸術祭で示すメッセージであり、次回SIAFの土台となる「テーマ・コンセプト」を決定する。

また、具体的な会期（2023年度冬季）及び開催までの市民参加プログラムのほか、次回SIAFを効果的に印象づけるメインビジュアル等を決定する。

⑵ 実施体制の構築

小川ディレクターの構想を実現するためのキュレーター、デザイナー、専門スタッフ等の選定など、実施体制の構築を図る。

次回SIAFでは特に地元人材を積極的に登用し、札幌ならではの芸術祭を作り上げるとともに、外部の専門人材を併せて登用して地元と協働することにより、地元に新たな経験を残せる体制の構築を目指す。

⑶ 開催計画の検討

テーマ・コンセプトに基づいた具体的な展示内容や実施プログラム、参加アーティスト等を検討する。また使用会場を決定するとともに、会場ごとの展開や効果的な周遊を促す構成など、開催計画の検討を進める。

２　広報プロモーション

⑴ プレスリリース（記者発表）

次回SIAFに係る決定事項について、夏季と冬季の２回に分けて発表を行う。効果的に周知を行うため、市内広告やWEBのほか、専門誌への掲載等さまざまな媒体と連動した広報展開を行う。

⑵ WEB・SNSを活用した情報発信

SIAFへの関心や開催に向けた機運を高めるため、WEB・SNSを活用した情報発信を継続して実施する。

⑶ ウェブサイトの構築

次回SIAFに向けた新しいウェブサイトを構築し、さまざまな情報にわかりやすくアクセスできる状態にするとともに、本祭に向けた期待感醸成を図る。

３　SIAF 普及事業

⑴ SIAF ふむふむシリーズ(R3～)

札幌市内で開催される文化芸術イベントと連携し、鑑賞に係るハードルを下げるためのガイドブックの発行やオンラインコンテンツの公開を行う。また、イベント会場に来場できない市外居住者や障がい者等に向けたオンラインツアー、オンラインコンテンツの公開を行う。

⑵ オンライントークプログラム

ポッドキャストや YouTube などオンライン上で音声や動画を公開するシステムを活用し、ディレクターや地元キュレーター等が出演するトークシリーズを展開する。さまざまな切り口からアートを身近に感じる内容とし、コロナ禍においてもオンラインで楽しめる機会を提供する。

（3）メディアアーツ関連イベント

市内のアート・デザイン等を学ぶ学生をメインターゲットとして、メディアアーツコンテンツの鑑賞機会を提供するプログラムを地元専門人材と協働して展開する。

（4）企業・団体・学校等連携プログラム

企業・団体・学校等と連携し、ディレクターやキュレーターによるトークイベントや、アートに関するワークショップを開催し、市民等が文化芸術活動に主体的に参加する機会を創出する。

（5）既存事業等との連携プログラム

さっぽろ雪まつり、さっぽろアートステージ等、既存事業と連携したプログラムを実施し、幅広い層にアートに触れる機会を提供する。

４　SIAF ラウンジの活用

⑴ SIAF ラウンジにおける情報発信

札幌市資料館内にある「SIAF ラウンジ」を活用し、当該文化財施設を訪れる観光客等の来場者に対し、SIAF に関するアーカイブ（冊子、写真、動画等の記録資料）や今後の活動に関する情報を提供する。

⑵ SIAF ラウンジオンライン

SIAF ファンやアートファンとの継続的な関係性を構築するため、オンライン会議システム Zoom を活用したオンラインサロン「SIAF ラウンジオンライン」を定期的に開催する。ゲストスピーカーや国内外からの参加者による双方向のコミュニケーションが可能な場を提供する。

５　SIAF ラボの活動

札幌・北海道の環境をアートやテクノロジーの視点から捉え直す「SIAF ラボ」の活動を通じて、SIAF を支える文化の土壌づくりや、札幌ならではの文化・芸術の醸成と発信を目指す。

【主な活動メンバー（予定）】

氏名	肩書
久保田　晃弘	アーティスト／多摩美術大学情報デザイン学科教授
小町谷　圭	メディア・アーティスト／札幌大谷大学芸術学部准教授
石田　勝也	札幌市立大学デザイン学部講師
船戸　大輔	エンジニア／株式会社アートフル代表取締役
平川　紀道	アーティスト

【主なプロジェクトの内容】

(1) 札幌・北海道を舞台とした研究開発プロジェクト

札幌・北海道の寒冷な気候や都市に隣接する自然、除排雪をはじめとした独自の都市機能に着目したプロジェクトを複合的に実施し、研究開発を通じた次回芸術祭へのノウハウ蓄積や人材育成、市民への鑑賞機会の提供などを目指す。

ア　北海道リサーチプロジェクト（R3～）

外部のアーティストや学術機関等の他分野と連携し、札幌・北海道の特色をより深く掘り下げるリサーチや外部専門家へのインタビュー、市民向けトークイベントを実施する。令和４年度は準備年とし、SIAF 開催年度にはプロジェクトの成果発表を予定している。

イ　ディープウォータープロジェクト（R3～）

SIAF ラボがこれまでに実施してきた、厳しい環境下での芸術表現を探究するプロジェクトの一環として、独自開発した無人探査機により支笏湖最深部（水深約360m）への到達を目指すとともに、記録映像を制作するほか、市民向けイベントの実施を予定している。

ウ　SCARTS×SIAF ラボ 冬の展覧会 2023

札幌文化芸術交流センターSCARTS と協働し、除排雪や気候など札幌の特色をアートとテクノロジーの視点から捉え直す展覧会を開催する。

(2) アートエンジニアリングスクール

メディアアーツ都市・札幌の次世代を担う展覧会エンジニア等のメディアアート人材を育成するため、世界で活躍するアートエンジニアへのインタビュー動画の配信、制作現場見学授業「バックステージ・パス」等を主にオンラインで開催する。

６　人材の育成

(1) SIAF 部

アートマネージメント等のスキルを習得することができる人材育成プログラムとして、定期的なミーティングや現代アート・アートプロジェクトに関するレクチャーを実施するほか、イベント現場での実践的な活動を行う。

(2) アートエンジニアリングスクール【再掲】

５　SIAF ラボの活動（２）参照